

第42回全日本実業柔道個人選手権大会戦評
(主に当連盟加盟チーム選手を中心)

男子100kg級

男子100kg級は、昨年準優勝の野田が熊代の大外刈に不覚を取り、優勝を逃す。

昨年に続き準優勝の旭化成の野田嘉明参段は延長戦まで及ぶ幾度かの接戦を勝ち抜き、準決勝戦で僚友の田中貴大参段と対戦する。

ALSOKの新鋭熊代は初戦から背負投、払腰、寝技、大外刈と多彩な技を駆使してオール一本勝で勝ち上がる。準決勝戦でも、試合中盤に沼田貴廣四段(センコー)を豪快な大外刈で仕留め、決勝戦に臨む。

進境著しい第3位入賞の田中貴大参段(旭化成)は、危なげなく勝ち進み、第5回戦(準々決勝戦)では強敵小林大輔四段(ALSOK)を延長戦の旗判定で退ける。

準決勝戦第1試合

4 沼田 貴廣 (センコー)	大外刈	○3 熊代 佑輔 (ALSOK)
-------------------	-----	---------------------

準決勝戦第2試合

3 野田 嘉明○ (旭化成)	(指導4)	3 田中 貴大 (旭化成)
-------------------	-------	------------------

手の内を知り尽くしているチームメイトによる一戦であるが、直前の試合を延長戦までフルタイムを闘った田中は、10分間の休憩を与えられるも、試合開始から疲労の色濃く、珠に左組みから巴投を散發するのみ。対する野田は右組みから引手を得られないまま片手背負投を連発する。1分19秒、防戦の田中に指導1。続く1分47秒、田中の巴投を偽装的攻撃と見なされ指導2。中盤に入り疲労の色をいよいよ増す田中に2分30秒、指導3。その後、田中は場外際で隅返を仕掛けるが野田は良く防ぐ。続いて3分16秒、田中が意表を衝く右背負投に入るも、これを偽装攻撃とされて指導4を受け、反則負けを喫す。

決勝戦

3 熊代 佑輔○ (センコー)	大外刈	3 野田 嘉明 (旭化成)
--------------------	-----	------------------

右組みの野田は身長で劣るも、熊代に対し堂々組み、右小外刈、右小内刈を飛ばして熊代を揺さぶる。身長に優る熊代は釣手を上から持ち、引手をはっきり引いて野田に圧力を掛ける。共にしっかり組み合う中、開始40秒を過ぎる頃、熊代が場外付近で遠い位置から左大外刈を仕掛けると、野田は後ろに右足を引き、これを返そうとするも、体が斜めになったところを更に刈り込まれて、開始51秒、不覚にも背中から倒れる。昨年準優勝の野田、今年も決勝戦で涙を飲む。